

令和6年度 池田町総合教育会議の概要

日 時 令和7年3月11日（火） 午前10時～12時00分
場 所 北安曇郡池田町大字池田3203-6 池田町役場 2階 中会議室
出 席 者
町 長 矢口町長
委 員 山崎教育長、小澤教育長職務代理者、森泉委員、後藤委員、小林委員
欠席委員 無
事 務 局 学校保育課長、生涯学習課長、学校保育課長補佐、学校保育係主事
書 記 学校保育係主事
傍 聴 人 3人

1 町長挨拶

十分な意思疎通を図り地域の教育の課題や情報を共有し、より一層民意を反映した教育行政の推進につながる会議にしたい。

2 協議事項

(1) 町長、各課長より次年度教育関係予算について説明

① 保育園・学校関係

○施設充実

- ・ 保育園蛍光灯LED化
- ・ 小中学校一般修繕
- ・ 高瀬中学校生徒用タブレット更新
- ・ 中間教室移転整備

○デジタル教材

- ・ 三校の学習ソフト及びデジタル教科書の利用

○人材確保

- ・ 各小学校教育支援員
- ・ 中学校講師、相談室職員
- ・ 英語指導員
- ・ 「にじいろ」指導者

○学校総合活動等補助

小学校 40万円 中学校 70万円

② 生涯学習課関係

- ・ クラフトパーク地下高圧ケーブル張替え

- ・創造館外トイレ屋根防水工事
- ・弓道場安土改修
- ・テニスコートトイレ洋式化
- ・かえで広場大型遊具

(小澤職務代理) 前年度以前に子供達からアンケートを取ったと思うが資料に含まれているのか。

(大澤課長)令和3年にアンケートを取っておりその中から選定している。

(小沢職務代理)そんなに広くない広場の中で、ボール遊び等が出来るスペースをどのように考えているのか。

(大澤課長)安全状況や周囲の意見も含め、レイアウトを考えている。

(森泉委員)不登校児童のオンラインの接続状況が知りたい、またオンラインで学校と繋がることに負担に思う子もいるかもしれないが、学校にいつでも繋がる環境を残してほしい。

(山崎教育長)中間教室にじいろでは、オンラインに登録をしている児童や毎日とは通わない児童もいて、教室で会えない時はタブレットを通してオンラインに繋がりチャットを用いてやり取りをしているという話は聞いている。

ただ、工夫の余地はまだあると思っており、有効に使える方向を考えないといけない。

(森泉委員)この前子供子育てのアンケートを取った時にタブレットを持ち帰ることへの不安や、ネットから切り離したいと思っている家庭にはどのような対応をすれば良いのか。

(山崎教育長)タブレットの使用に対して不安を感じている家庭もあり、視力の問題についても話が出ている。便利な機械であることは承知の上で、どのように使うのかを今後も学校や園長会でも議論してまいりたい。

(小林委員)人材確保について、欲しい人数は決まっているのか。

(井口課長)毎年この人数の予定で予算もお願いしている。

(2) 第2次教育大綱について

- ・策定から現在までの6年間の成果と課題

(森泉委員)教育大綱を変えないのは良いことだと思っている。しかし、現代の日本のような予測不能な時代に子供たちをどう育てていくかを考えないといけないと感じている。新型コロナウイルス感染症の拡大や世界各地で戦争が起こり、人口減少や高齢化社会、AI技術の進展、ジェンダー等の問題も多いこの時代を生き抜いて力をつけるためには、どのような教育を行えばいいかという視点もこの大綱の中にあると思っている。

(小澤職務代理)教育大綱の一番の理念になる子供が真ん中という言葉が町民の方がとても理解しており、浸透しているのでとても嬉しいと感じている。それから以前村瀬先生が話していた、自分で考えて行動する子供たちが増えると様々な場面で自分なりに判断する力がつけられるようになることなので、森泉委員が懸念されているこ

れからこの大きな社会の変動の中で、自分が飲み込まれることなく自立していける力になるのかなと私は思っている。今池田町がやろうとしている15年プランもその方向に力強く動いていると感じている。それから、多様性。色々な人たちを受け入れながら自分も発信できるような人になっていくために今狙っているのが、インクルーシブ教育だと思っているので、インクルーシブ教育の推進も入れられたらいいと思う。それから居場所の確保。池田町は今年からこども家庭センターや放課後デイサービスが出来、にじいも午後まで開いているので子どもたちの居場所が広がってきている。この居場所の確保というのは、とても力を入れていることになると思うのでそのことを盛り込めたら嬉しいなと思った。

(後藤委員)先生方や校長先生をはじめ、この大綱があったからこそ、コロナによって、色々なものを変えていけたんじゃないかなと思っている。授業にしても、今までは黒板を見てそれを板書するという学習から、GIGAに変わりそれに合わせた授業も子供たちが中心になって考えるということは、この教育大綱があったからこそ出来ていると思っている。先月も保小中の運営協議会にて、現場の先生たちの声を聞いたがそれぞれの保育園、小学校、中学校、高校も含めて連携がすごい出来ていると感じた。その中でも、異年齢の子どもたちが交流をする姿を見るようになった。異年齢の交流が広がることにより、先生たちの負担も減少し子供たちのコミュニケーションも深められるので、このまま進めてほしい。

(矢口町長)色々な現場の声を聞いて非常にありがたいと思っている。教育大綱の全般的な話の中で、先程の話にあった異年齢の活動が今後より子供の数も少なくなっているのもとても重要だと思っている。

町民の方々も、子供が真ん中という意識が浸透してきているので、池田町の教育大綱を進めて、子供たちが考えて動くというところに繋がっていくことが、池田町にとっても非常にプラスになるのかなと思っている。

気持ちを込めて教育を地域の皆さんと一緒に作り上げたことが1回は外に出ても、絶対に帰ってきてもらい、自分たちの故郷のことを少しでも思っていたくことが、町の活力にも繋がるかなと思う。

また、教育委員会に任せるだけでなく、町も一緒に考えていく体制に持っていけたらいいなと思っている。

(小澤職務代理)中学3年生と少子化の対策のことで話をしたと思うが、どんな内容のことを話したのか。

(矢口町長)今の中学3年生がこんなにも町のことを考えているというということが、驚いた。ちゃんと調べてデータを取って池田町の人口や費用を考えて池田町にとってプラスになる提案がすごく多かったので、私にとってもその人たちの思いを実現するためにやらないといけないと感じた。子供たちの素直な意見が、エビデンスがある提言なので私が答える時にも、議会の答弁と同じような課題に真剣に答えて受け入れないといけないと感じた。また中学の卒業式の時にも話す機会があればと思っているので、繋がりを保てるようにしたい。それが実現できたのかどうか、提案がどうなったのかを知ってもらいたいのと、関心を寄せてもらえるとありがたい。

(3)義務教育のあり方検討委員会について

・3回分の会議の経過と今後の予定について

(後藤委員)とても難しい内容だと思うので、あと1年1ヶ月しっかり話して、行っていただきたいと思っている。また、池田町は一つだけだと思っており、小学校や保育園がいくつあっても、それが一つになっても、池田町という一つの町ということを念頭に置いてほしい。

(小澤職務代理)主体的な学びも意識しながら、池田町がどのように少子化によって学校が変化していくということを研究して検討していただきたいと思っている。

(4)その他

①会染保育園の利用 民間保育所の誘致について

(後藤委員)改修に関して補助があるということだが、今年度の予算にその部分が含まれているのかどうか。それから、最終的に申し込みがない時にどのように考えているのかを聞きたい。

(井口課長)改修費用が決まり次第、町負担分を7年度補正予算であげる予定。申込が全く来ない場合は内容の見直しや緩和するといったことを考えている。

(森泉委員)保育園や学校はその地域を作っていると言っても過言ではないと思っている。会染保育園の誘致に係るメリットや課題を考える時間がもう少し長くても良いのかなと感じており、様々な事態を想定して今年は考えながら進めてほしい。

(矢口町長)地域に根ざした保育園を目指すことは本当に大事にしていかなければならないことで、地域の皆さんが理解して、コミュニティスクールではないが、地域の方が入れる保育園を考えており、そのこともふまえて事業者の方をお願いしたいと思っている。それと要綱では10年間はやってほしいと謳っておりそういったところも担保しながら、10年先のことはまだどうなるか分からないが、とりあえず10年間は、しっかりやってもらう条件を基に募集をする形になっている。それから建物の下は池田町の所有のまま無償貸与で、上は譲渡する形になる。また、会染保育園内はエアコンも全部設置が終わっているので快適な環境状況ではあるが、うまく活用する事業者としっかりと整備する形になろうかと思っている。また、細かな課題等は出てくるかもしれないのでしっかりと事業者の方と事務局と話をし少しずつ課題解決をしたいと思っている

②子どもの居場所(子ども家庭センター、放課後デイサービス、にじいろ)について

(小澤職務代理)教育支援センターはどのような役割なのかを教えてください。

(山崎教育長)教育支援センターに出来れば、家から出られないお子さんの対応や家庭訪問といった時間的に大変なところを教育支援センターで担っていきたいと考えていて、ゆくゆくは教育支援センター化を目指しており、そのためには、支援員の増員や必要人員の把握をしないとイケないので、段階を踏みながら教育支援センター化したいと思っている。

(森泉委員)この1月に私が中学1年生の時から関わった生徒が26歳で亡くなり、私はこの生徒とずっと付き合っていく覚悟をしていたのでかなりショックを受けた。中学を卒業した後の青年期はとても危ういと思うので、支援という繋がりを考えてほしい

と思っている。

(矢口町長) こども家庭センターが4月からでき、名前はこどもに変わったが、前は多世代相談センターということで、かえって子供の相談が出来にくかったことがあった。子供にシフトして、今度福祉の相談係として名前は非常にわかりやすくした。こども家庭センターの中で、福祉の方と連携を密にし、家庭訪問ができる体制をとるためにコンタクトを取って集落支援員さんの確保ができた。これは100分の100で、国からの補助金が全部出て人件費が出る。それと4月1日からこども家庭センターに地域おこし協力隊の保育士さんが入り、そういったところで人数的に充実してくるので、15歳から18歳までの3年間、成人は18歳までになったのでこども家庭センターと福祉の相談係と多世代相談センターの連携でケアをしていきたいと考えている。若者世代の人たちが自ら生命を絶ってしまう事案も少しであるが出てきている。その人たちも関わっていて、関わっていた先に自ら命を絶ってしまうのが一番悲しい状況なので、お知恵を借りながら寄り添うような対応が必要だと思っている。

(森泉委員) 子ども食堂について、私達もすごく心配しており児童センターの三澤さんや社協とタイアップして、今年中に1回試験的に何かやろうと考えている。

夏休みや冬休み後に痩せて登校している話を聞いているので、地域の人と協力して検討・相談して考えている。

(5) 要望

(小澤職務代理) 二つあって、一つは今年から高瀬中学校が保小中の関係での防災拠点になるが、昨年は初めて保小中が一斉に同じ日に引き渡し訓練を実施した。色々な災害が起こる中で、学校だけ保育園だけで施設だけでやっても、いつ災害が起こるかは分からず、町全体で防災をするという学びをしないと、役に立たないと思っている。今までのただ避難訓練をしているだけではなく、臨機応変に考えられる子供たち、それから実際にはもう災害から助けてもらう側ではなく、そこで対応して自分たちも実際に動けるようなことを学んでほしいと思っているので、今年は保小中でまた一斉にやりますが、地域を巻き込んでいくような形で、町の行政の方とタイアップが出来ると、とても意義があると感じている。しかし、急に実施するのは難しく自治会の方の意識が高まっているのか分からないので、出来るだけ保小中をさらに広げて、地域と連携するような形になればと願っておりまたお手伝いしたいと思っている。

もう一つは性教育。性教育も学年で内容を決めるのではなく、15年プランというものがあるので小さい頃から性の知識を蓄え、自分を守っていく立場のところからお互いの性を考えあり方を考えて、最終的には人権まで含むような性教育を立ち上げ、小さい頃から育てて、学ぶことが大事だと思っている。保護者にも性教育のことを出来ればもっと広げたいので、地域おこし協力隊の人に、子育て政策広報というものがあるので、この方が見つければコミュニティスクールの広報担当で各学校を回ってもらい、写真を撮り内容が分かる形で定期的に出せる人がいるととてもありがたい。また、コミュニティスクールがあまり知られていないのでそのことも含めて、ご協力をお願いしたい。

(森泉委員) 子育て世代は非常に経済状況のダメージが一番受けていると感じていて、

池田町や教育委員会が色々な支援をしているけど、地域で子育ての孤立、子供との関係で過剰な不安や心配を抱えているのではないかと思った。以前お店で小さな子供がお母さんと買い物に来ていて、お母さんにこれ欲しいあれ欲しいと言っていたがお母さんは買わないよと言って今日は2,000円までだよという会話を聞いて、今2,000円で何が買えるのかと考え、その時に物価が高いなと思っている。その時の子供の残念と言いつけている様子を見て心と耳に残り、今の子育て世帯についての状況の把握をお願いしたい。

(後藤委員)他の市町村に行くと、道路進行方向に向かって左側に水色のラインいわゆる自転車の専用車道がありとても分かりやすいなと思った。子供が安全に自転車を乗れる環境と自転車やウォーキングランニング専用の道を難しいとは思いますが子どもの安全のために作ってほしい。

それからデジタル化のことで、タブレットの導入の時から懸念していた視力の低下についてこの前の新聞に全国的にも視力が下がっていると載っており、タブレット以外にも原因があるかもしれないが、その対策を町としてもしっかり対策をしてほしい。

(小林委員)地域の方々が学校の状況が分からないので、学校もグランドデザインを立ててはいるが、それに対して、地域は知らないで自分の地区の行事で子供のお神輿などあるが、大人が手を加えて進行しているので、学校としてはやっぱり子供に主体的に動いてほしいところもあると思うので、周知を出来ないかなと感じている。小澤先生も言っていたがLINE等で学校の様子を発信してくれる方がいれば、学校と地域の距離も近くなるので、学校の様子が分かる状況を発信してほしい。

(山崎教育長)2点お願いしたいことがあり、一点目は防災。町の避難訓練の中にぜひ中学生を混ぜた避難所開設訓練のところに中学生が参加できるような体制を作って、実現したいと思っているので、また相談したい。

もう一点は、部活動の地域移行の指導する人がいない。町の職員にも、色々な経験をしている方やスポーツ経験者の方もいるので、ぜひ町の職員が活動に関わるシステムが作れないかなと思っている。町の職員で、仕事に支障が出ない限り、何かやりくりが出来るシステムを作れたら非常にありがたいと思うので、相談したい。